

「米作りを教わって広がる夢」

五年 松野 昌幸

ぼくは、おじいちゃんのお米づくりの手つ  
だいをしています。田んぼの水をいっしょに  
見てまわったり、いねかりなどを教えてもら  
ったりしています。

いねかりの前の日、田んぼのかどのいねを  
がまごジヤキジヤキとかがっていききました。ま  
だなれていないころは、がまご手を切ったこ  
ともあったけど、やっていくうちにだんだん

となれて上手にがることができるようになっ  
てきました。

いよいよ、いねかりの日がやってきました。  
ぼくは、コンバインのおじいちゃんに運転せ  
きのとなりにすわって、いねにまじったひ  
えしというごそうを見つけたりのぞく作  
業をしていました。目に見えない「はしか」  
が体にくっついて、がゆくなってきました。  
がたがたとゆれるので、落ちそうになった  
ことがありました。

コンバインの米のたまるタンクがいっぱい  
になっただけいらつきの荷台にうつして  
それをかんそう機にうつします。おじいちゃん  
は、なれこいるのできばきと作業をやっ  
ていきます。おじいちゃんは米づくりの達人  
だと思いました。  
いねがりのあとには、米をかんそう機でかん  
そうさせ、うすひきをして、米のもみがらをと  
取ります。米をふくろづめして、JAに運ん  
でいきます。ふくろづめしたお米を運ぼうと  
したら、重すぎて思わず、  
「重たあいし。」  
と大声で言いました。運びきれずに、落とす  
てしまうことも時どきありました。でも、お  
じいちゃんを見ているとすいすいと運んでい  
るので、ぼくもまけずに運びきろうと思っ  
ておなかにかき入れました。  
おじいちゃんは、  
「まさゆき、むりせんでもいいけんいっしょ  
に持っちゃうように」と、言ってくれました。

うすひきのとぎにホースがら出たもみがら  
をためる所のいなは、よくのびるそうです。  
たぶん、もみがらのえいようが、土にまぎっ  
ているがらだと思っています。

ふくろづめを運び終わったら、とてもす  
きりとして気もちがいいです。このような米  
作りの体験ができて、幸せだなあと思います。  
いずれ、しよらい米作りをしようと思  
うので、今のうちにしつかりと、米作りをおじ  
いちゃんに教えてもらいたいです。ぜひ、おじ

いちゃんのお話をたくさんぼくのものにして  
おきたいです。

そして、しよらいは、自分で新しい品種  
をつくれるように研究していきたいです。み  
んながぼくのつくった新しい品種のお米を食  
べて、

「おいしいね。」

と、言ってくれたら、最高です。夢を考える  
と、雲にとどくぐらい飛び上がりそうです。